



小池辰雄記念図書室だより



2012.11.1(木) NO.7 千葉県若葉区都賀3-24-8-4F 小池辰雄記念図書室発行

すすき

芒より風はなれてはひかるなり 倉橋羊村

不思議な出会い 我が家で読む会

帯広 西島 啓喜

北大YMCAの汝羊寮に同期として入寮した4人の中に水谷兄がいました。兄とは一緒に週2回の聖書研究をし、語り合い、切磋琢磨した中で、卒業後も折々にお世話になりました。兄と話すとなぜだか心が温まり元気が出たものです。けれども、兄が恵泉塾を始めた頃から、こちらの多事で『波止場便り』を送って頂きながら気になりながらも、連絡がおろそかになっていました。

今年になってから不思議なご縁で元塾生の方と知り合い、帯広での集会のことを聞き、初めて参加しました。10数年ぶりの再会を果たすことができ、小池辰雄を読む会にも集うことができました。

小池辰雄著作集は全巻購入していましたが、特異な表現に少々とっつきにくさを感じ、本棚の飾りになって申し訳なく思っていました。しかし、水谷兄の身近に接した小池辰雄という人物像に触れながらの解説を聞くととても良く分かり、福音の真髄に触れるような思いです。小池辰雄先生は文学者であり、詩人であり、使っている言葉が豊かで詩的であることから、元国語教師の水谷兄の解説は理解の助けになります。参加者一人一人も感想や疑問を述べ、それに対して丁寧に解説されるので、進度は遅いのですが、それだけ内容が深められています。

帯広での最初の集会は福音教会で行いましたが、2回目、3回目は我が家を使ってもらいました。毎回、数名の牧師先生も含め10人前後の方が集まります。朝5時からの聖書研究会は、私の生活パターンとは正反対で、新鮮な驚きでした。ケーススタディーは、私たちの教会でも抱えている「統合失調症」「うつ病」を取り上げ、基本的な知識から始めて具体的な対応を学ぶことができました。

小池辰雄を読む会、聖書研究会、ケーススタディーを通して水谷兄が主張しているのは、福音の中心は愛し合って一つとなることであり、愛は言葉ではなく具体的な行動である、と理解しました。

現在のキリスト者のさまよっている信仰の在り方に一本の筋道を通された思いです。

11月小池辰雄を読む会

小池辰雄を読む会 IN 都賀

第22回 2012年11月17日(土) 10:00~11:30
ところ 千葉県若葉区都賀3-24-8 都賀プラザ5F
会費 1000円 初心者歓迎・予習不要
連絡先 043-235-3815 (長野 初美)

小池辰雄を読む会 IN 余市

第8回 2012年11月4日(日) 13:30~15:00
ところ 余市郡余市町豊丘町370-9 恵泉祈りの家
会費 無料(但し自由献金) 初心者歓迎・予習不要
連絡先 0135-23-9222 (木下 肇)

小池辰雄を読む会 IN 札幌

第7回 2012年11月2日(金) 19:00~20:30
ところ 札幌市南区川沿10条3-10-5 札幌祈りの家
会費 無料(但し自由献金) 初心者歓迎・予習不要
連絡先 011-571-2348 (三ツ木芳夫)

小池辰雄を読む会 IN 神戸

第4回 2012年11月18日(日) 14:00~15:30
《神戸では隔月に読む会を行います》
ところ 神戸市中央区磯上通り4-1-12 神戸バイブルハウス
会費 500円(自由献金あり) 初心者歓迎・予習不要
連絡先 090-9256-4841 (田中 愛子)

小池辰雄を読む会 IN 帯広

第3回 2012年11月13日(火) 14:00~16:00
ところ 帯広市西22条南4丁目31-11
会費 無料 初心者歓迎・予習不要
連絡先 0155-36-8626 (西島 啓喜)

小池辰雄を読む会 IN 北見

北見での小池辰雄を読む会は、雪のため、来春4月までお休みします。

連絡先 0157-36-9803 (千葉 春枝)



小池辰雄伝 その6

小池 信雄

(小池牧子と交互に執筆します)

● 大学は出たけれど

「大学を出たら何を生業として生きていこうか」——ふつう、卒業前年に学生は考えるものである。「兄政美の弔い合戦」と自らの人生を規定するのはいいが、それだけでは食べていけないだろうと、凡俗な私は考える。

小池辰雄が大学を卒業した1929年は、「世界大恐慌」の年であり、日本はすでに1927年の「昭和金融恐慌」に始まる最悪の不景気時代に突入していた。この年にヒットした映画『大学は出たけれど』(小津安二郎監督)は、「受付係でいいです」というラストでようやく就職が決まるストーリーだった。二人に一人は大学出という現在と違って、中学卒業がエリート、高校卒業はエリート中のエリート、大学卒業者はそれで人生の勝利者という時代にもかかわらず、大学卒業者の30%しか就職できなかったのである。

しかし辰雄が就職活動に奔走した気配は全くない。晩年は東大教授になっているが、少なくとも卒業時に大学に残ろうとした様子もなく、履歴ではこの年「昭和医学専門学校ドイツ語講師」になったと記されているだけである。この専門学校は、前年1928年11月に、池上電気鉄道(同年6月五反田・蒲田間開通)の旗の台という郊外にできたばかりであった。現在の昭和大学の創立時で、水原豊という産婦人科医も同じ時に就職したが、その人物が水原秋桜子という有名な俳人だったとも、辰雄はまったく知らなかったようだ。

要するに世間的には教職員という職業に生涯就いていたのだが、その世界にほとんど関心を持たなかったのではないかと思う。「大学を出てから何を職業として食べていこうか」という類の悩みを持たなかったらしい。

辰雄が悩むのは、愛する人が死ぬ、あるいは失明する——その兄の代わりに命を、母には片眼をあげたいという悩みであり、高校に入学した後も、病弱のまま、一年を病床で過ごした情けない自分は、「兄さんの代わりになれない」という悩みである。辰雄は毎日、「身許に逝ける兄の霊、わがうちに深く宿りたまえ」と祈り、「政美は辰雄である」と繰り返し唱えていた。

「小池辰雄記念図書室」に、小池政美の訳した『基督の復活』(フレデリック・ゴードー著)という本がある。これを見つけたとき、27歳の若さで死んだ辰雄の長兄には、すでに岩波書店発売の翻訳書があったと驚いた。インターネットで検索してみたら2軒の古本屋が2500円の値をつけていまだに扱っていたので、さらに驚いた。

政美が亡くなって3年目の春、水戸高校2年生の辰雄に、藤井武先生が「政美君の翻訳遺稿を本に

するので校正をしてほしい」と本の校正ゲラを送ってきた。校正などしたことのない高校生は、敬愛する兄のためにお手伝いできると張り切ったが、いかんせん体の弱い辰雄は腸潰瘍になり入院してしまう。その頃の体重は、10貫(約38キロ)だったという。

3か月ほどして、美しい装幀のハードカバー一本が藤井先生から送られてきた。もちろん辰雄は藤井先生に感謝するのだが、この本のお金は誰が出したかは考えもしなかったろう。発売「岩波書店」、発行「舊約と新約社」となっているのは、自費出版という意味だ。

今と違って一冊の本の製作は一大事業であった時代に、藤井先生といえどもそんな余分なお金があったと思えない。恐らく亡き政美のためにと献金した人物が居たのだと私は思う。

辰雄の回想では、兄政美は「ロンドンに赴任する予定が、サタンの人物によって北京へ変更された」というのだが、本当だろうか？辰雄にも、母上にも話さず、政美は伝道者になるべく自ら北京を志願したのだ。今ならそう言い切れる。

『基督の復活』を手にとってみると、この訳者の大蔵官僚の道を捨てる決意しての仕事だと分かる。そして、北京の地で伝道者の道を歩み、倒れた。そう考えると、辰雄の人生が「政美の弔い合戦」だと言ったのも分かるし、世間的就職に関心がなかったことも分かる。辰雄はすでに伝道者、政美とともに天職に就いていたのだ。

創作和菓子の詩歌

小池辰雄を読む会 in 都賀

佐藤 潔

1月:花びら餅 2月:福梅 3月:道明寺桜餅
4月:吉野 5月:初夏 6月:青梅
7月:水ぼたん 8月:青楓 9月:お月見
10月:秋の色 11月:山茶花 12月:聖夜

昨年6月、図書室オープンのおかげから和菓子を提供しています。私は父の後を継いで和菓子の世界に入りましたが、初めから好きで継いだのではなく、絵画の道を歩きたい強い思いがありました。ですから仕事に身が入らず、父とずいぶん喧嘩もしました。父の和菓子では満足いかず日本橋まで修行に行かせてもらったこともあります。28歳でその父を亡くし、成田から千葉に移って製造販売を始めました。そこで出会った茶会菓子を作ることで、菓子作りの楽しさを初めて感じました。自分の創意工夫で独自の菓子を作ることを覚えたからです。今、聖書の学びを通してここまで生きてきて、和菓子を喜んでいただけるのも、父の強い要望があったからこそだったと、親に対する感謝の思いが湧いてきました。これも主が御手をのべてくださったおかげです。御名を賛美します。

